

第7章 計画の事業・実施主体及びスケジュール

目標を達成するために行う事業を、以下に整理します。

基本方針	目標	事業	実施主体	2018年度	短期					中・長期 2024年度以降
					2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
1 都市構造を支える公共交通の確保	① 快適で円滑な乗継が可能となる乗り換え拠点の形成	㉑ 陶生病院バスロータリーのハブ化推進	交、団、行		運行開始					
		㉒ パーク＆ライド駐車場・サイクル＆ライド駐輪場等の施設整備	交、行							関係者と調整が出来次第実施
		㉓ バリアフリー化の推進	交、行							関係者と調整が出来次第実施
		㉔ 待合環境の改善	民、交、行							
	② 拠点間の交通ネットワークの確保・維持	㉕ 広域基幹バスの運行維持・見直し	交、行		本地ヶ原線の見直し					
		㉖ 市内基幹バスの運行維持・見直し	民、交、行		瀬戸北線、みずの坂・水野循環線、菱野循環線の見直し 赤津線の見直し					
㉗ まちづくりと連携した新たな交通ネットワークの形成		交、行		中水野駅、せと赤津 I.C. 周辺					関係者と調整が出来次第実施	
2 生活を支える公共交通の確保	③ 生活交通の確保・維持	㉘ コミュニティバスの運行維持・見直し	民、交、行		8路線の見直し					
		㉙ 菱野団地住民バスの運行維持・見直し	民、交、行		自家用有償旅客運送へ移行					
		㉚ 大学スクールバスとの連携	団、行							
		㉛ 新たなモビリティ・移動支援システムの導入	民、企、交、団、行		タクシー・自動走行技術等の活用、企業・関係団体との連携					
3 持続可能な公共交通の確保	④ 市民・交通事業者・行政の協働による利用促進	㉜ 地域主体の公共交通検討体制の構築	民、交、行							
		㉝ バスの乗り方教室の開催	民、交、行							
		㉞ バス広報の作成、配布	民、行							
	⑤ 公共交通利用意識の醸成	㉟ 市民向けエコモビの日（毎月第1水曜）の実施	民、企、交、団、行		運用開始					
		㊱ まちづくり、観光情報の発信	交、行							
	⑥ 利用しやすい交通環境の構築	㊲ 料金体系の見直し	民、交、行		運賃の見直し コミュニティバス回数券の作成					
		㊳ 交通系 ICカードの導入	交、行		コミュニティバス 愛知環状鉄道					
		㊴ バスロケーションシステムの導入	交、行							
		㊵ わかりやすい公共交通情報の提供（公共交通マップの作成等）	企、交、行							
	⑦ 運行内容見直し基準の作成	㊶ 運行内容見直し基準の作成	民、交、行		運用開始					

凡例 民：市民 企：企業 交：交通事業者 団：関係団体 行：行政

→ 準備・研究
→ 実施・検証

空白ページ

目標① 快適で円滑な乗継が可能となる乗り換え拠点の形成に関する事業

① 陶生病院バスロータリーのハブ化推進

公立陶生病院建替事業とともに整備される新たな陶生病院バスロータリーへ基幹バスやコミュニティバスの乗り入れを行うことで、乗換え拠点の形成とバス路線のハブ化を推進します。

また、乗り入れする路線や乗り入れ便数の増加を図るとともに、バス相互の円滑な乗継が可能となるダイヤ調整や案内環境の整備を行うなど、快適で円滑な乗り換え環境の整備を行います。

また、隣接市に立地する生活利便施設等との相互連携・交流を図るため、隣接市の公共交通の乗り入れを促進します。

<実施内容>

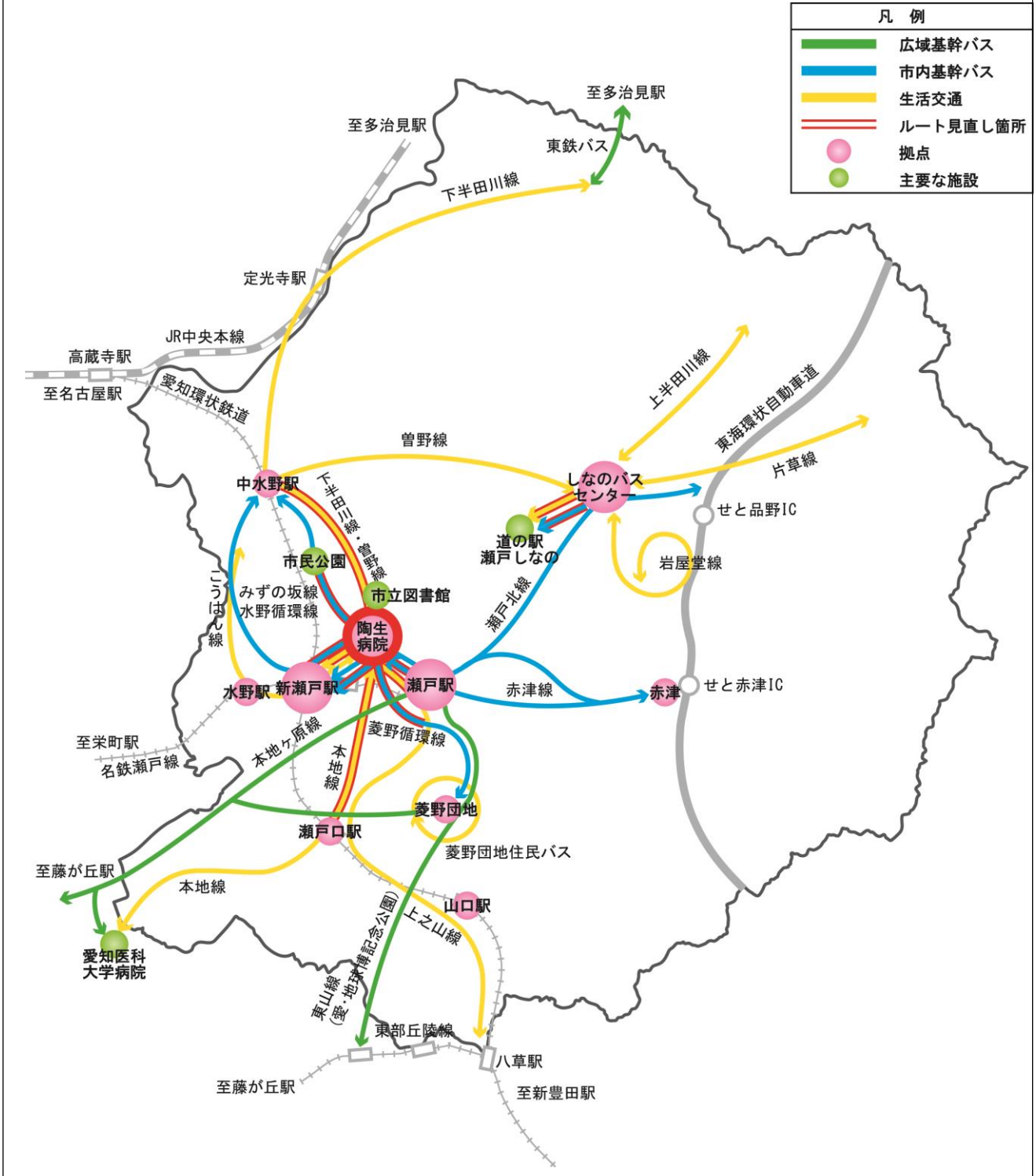
- ・市内基幹バスの陶生病院バスロータリーへの乗り入れ（瀬戸北線、みずの坂線・水野循環線、菱野循環線）
- ・瀬戸市コミュニティバスの陶生病院バスロータリーへの乗り入れ（こうはん線、本地線、下半田川線、曾野線、上之山線）
- ・円滑な乗り換えを可能とするダイヤの調整
- ・病院施設と連携した快適なバス待合環境の整備

■ 公立陶生病院 外構工事完了後イメージ



（公立陶生病院提供）

■ 陶生病院バスロータリーのハブ化と公共交通網の再編イメージ



⑥ パーク&ライド駐車場・サイクル&ライド駐輪場等の施設整備

鉄道駅やバスセンター等の乗り換え拠点においては、電車やバスなどの公共交通と自家用車、タクシー、自転車をはじめとする多様な交通手段の乗換利便性の向上を図るため、パーク&ライド駐車場やサイクル&ライド駐輪場の整備を進めます。

鉄道駅の駅前広場にバスターミナルと送迎車ロータリー、コインパーキングの整備等、バス同士の乗り継ぎを含めた公共交通の乗り継ぎ拠点を整備します。また、商業施設の既存駐車場や空き地等の利活用による官民連携の施設整備の取り組みについても研究します。

<実施内容>

- ・パーク&ライド・バスライド駐車場の整備
- ・キス&ライド（バスライド）乗降場の整備
- ・サイクル&ライド（バスライド）駐輪場の整備
- ・民間施設や敷地を活用した施設整備の研究

■ サイクルアンドライド駐輪場（しなのバスセンター）



■ 高架下を活用した駐車場（愛知環状鉄道）



■ パーク&ライド駐車場、ロータリー等の整備事例（関市）



関市では、パークアンドライドの拠点や、鉄道やバスの乗り継ぎ拠点として、関駅西口駅前広場に171台の有料駐車場を備えた「関シティターミナル」を整備している。

整備内容
・バス待合所、バス案内所（観光案内所）
・バス乗降場、一般車乗降場、タクシー乗降場
・有料駐車場（171台）、駐輪場
・関駅との連絡通路、防災備蓄倉庫等

◎ バリアフリー化の推進

交通の結節点となる鉄道駅、バスセンター等の拠点やその周辺においては、誰もが安全に安心して利用できるようエレベーター等の昇降施設、視覚障害者誘導用施設、多目的トイレ等の施設整備を推進します。また、鉄道やバスなどの車両更新や導入時においても、バリアフリー対応車両を継続して導入します。

物理的な施設整備に加え、必要な情報や案内の適切な提供による情報のバリアフリー化、市民や交通事業者、行政が連携した意識啓発の推進等による心のバリアフリー化をはじめ、ソフト面からの取組みも推進します。

<実施内容>

- ・エレベーター等の昇降施設整備
- ・視覚障害者誘導用ブロックや手すり等の整備
- ・多目的トイレや障害者用駐車、停車場等の施設整備
- ・バリアフリー対応車両の継続導入
- ・文字や音声による適切な情報提供
- ・デジタルサイネージを活用した情報案内
- ・各交通事業者の社員教育や訓練の充実
- ・市民や交通事業者、行政が連携した意識啓発

■ バリアフリー化の取組事例（新瀬戸駅・瀬戸市駅周辺バリアフリー基本構想）

バリアフリー対応車両の導入 ～名鉄瀬戸線 通勤型車両 4000 系～



瀬戸線用通勤型車両 4000 系の新造

- ・車内各ドアの上部にカラー液晶画面（15 インチ）の案内表示器
- ・バリアフリー対応も強化し、優先席を一面につき 10 席分設置

資料：名古屋鉄道 平成 20 年度設備投資計画
瀬戸市都市整備部都市計画課 撮影

バリアフリー対応車両の導入 ～愛知環状鉄道 2000 系電車～

すべての人に安心と安全を。車内のバリアフリー対策は万全です。
優先席をはじめ、車椅子の方も安心してご乗車いただけるよう、専用スペースの設置をしています。トイレにワイドな自動ドアを採用しました。車内表示器と開閉を知らせるドアチャイムにより、視覚案内・聴覚案内も充実。車外の車両連結間には、転落防止ホロを取り付けました。



資料：愛知環状鉄道(株) 2000 系電車パンフレット

バリアフリー対応車両の導入 ～名鉄バス～



資料：名鉄バス (株) 撮影



資料：名鉄バス (株) 撮影

④ 待合環境の改善

交通結節点となる鉄道駅やバスセンター等において、風雨や日差しなどを防ぐシェルターや座って待つことができるベンチ等の整備を行い、待合環境の改善を行います。また、わかりやすい乗換案内やのりば案内等の案内表示を整備します。

また、市民と連携してバス停周辺の草取りや清掃などの管理を行い、待合環境の維持を図ります。

<実施内容>

- ・バス停のシェルター設置
- ・バス停のベンチ設置
- ・案内表示の設置
- ・地域住民によるバス停の清掃

■ シェルターが整備されたバス停（佐賀市）

佐賀市のバス停シェルター設置事例では、上屋に加えて側面を囲うことで風雨をしのぎやすくしている。



■ 公共交通グループによるバス停周辺の清掃 （西陵連区地域力向上協議会）



目標② 拠点間の交通ネットワークの確保・維持に関する事業

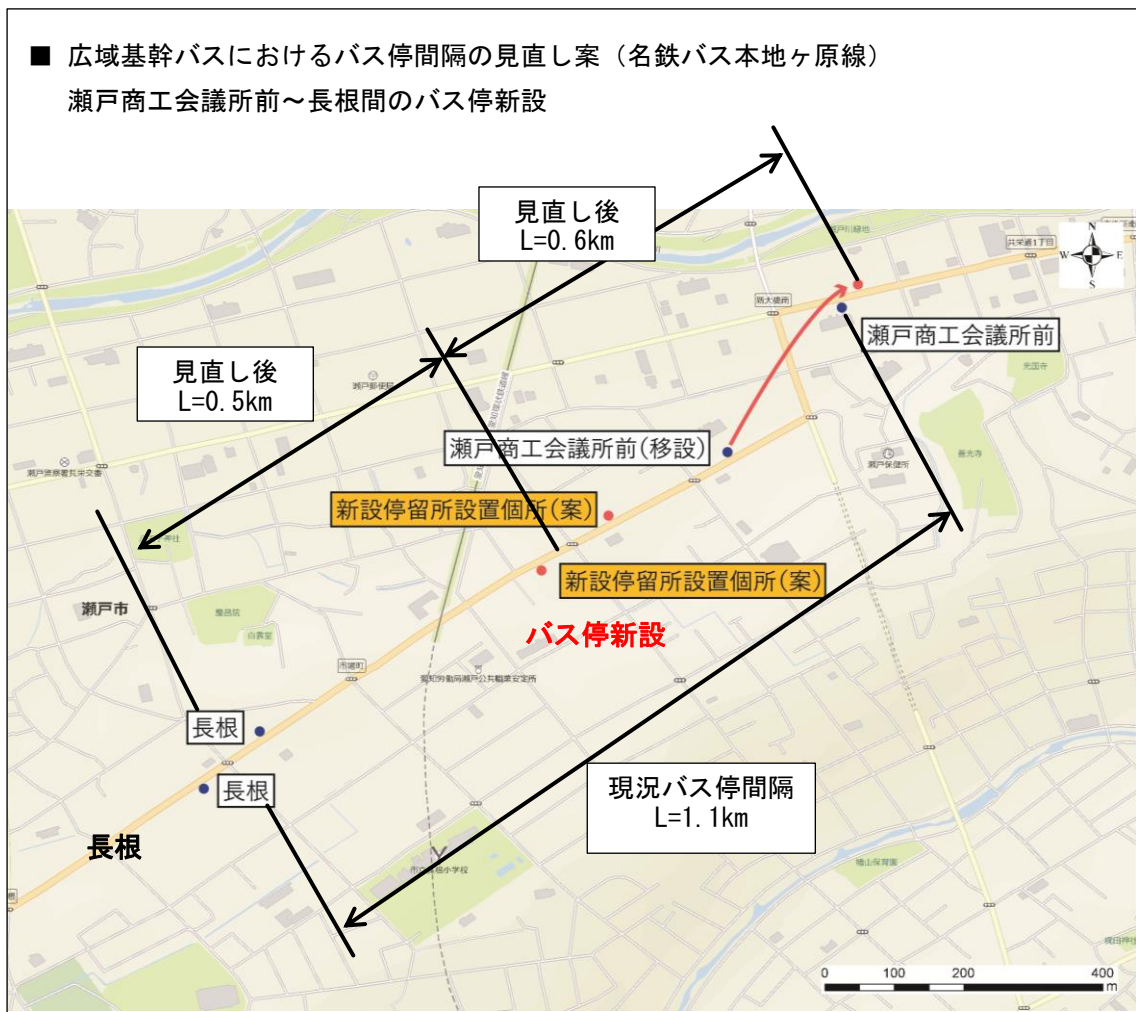
② 広域基幹バスの運行維持・見直し

通勤・通学や観光・まちづくりなどにおける利便性の向上を図るため、名古屋駅や隣接市の都市拠点との広域的な交通ネットワーク形成する広域基幹バスの運行を維持します。

利用実態や人口・土地利用動向、生活利便施設の立地状況などに応じた運行経路やバス停間隔・名称の見直し、鉄道や他のバスとの円滑な乗継を可能とするダイヤ調整等を行い、利便性の向上を図ります。

<実施内容>

- ・広域基幹バスにおけるバス停間隔の適正化（本地ヶ原線）



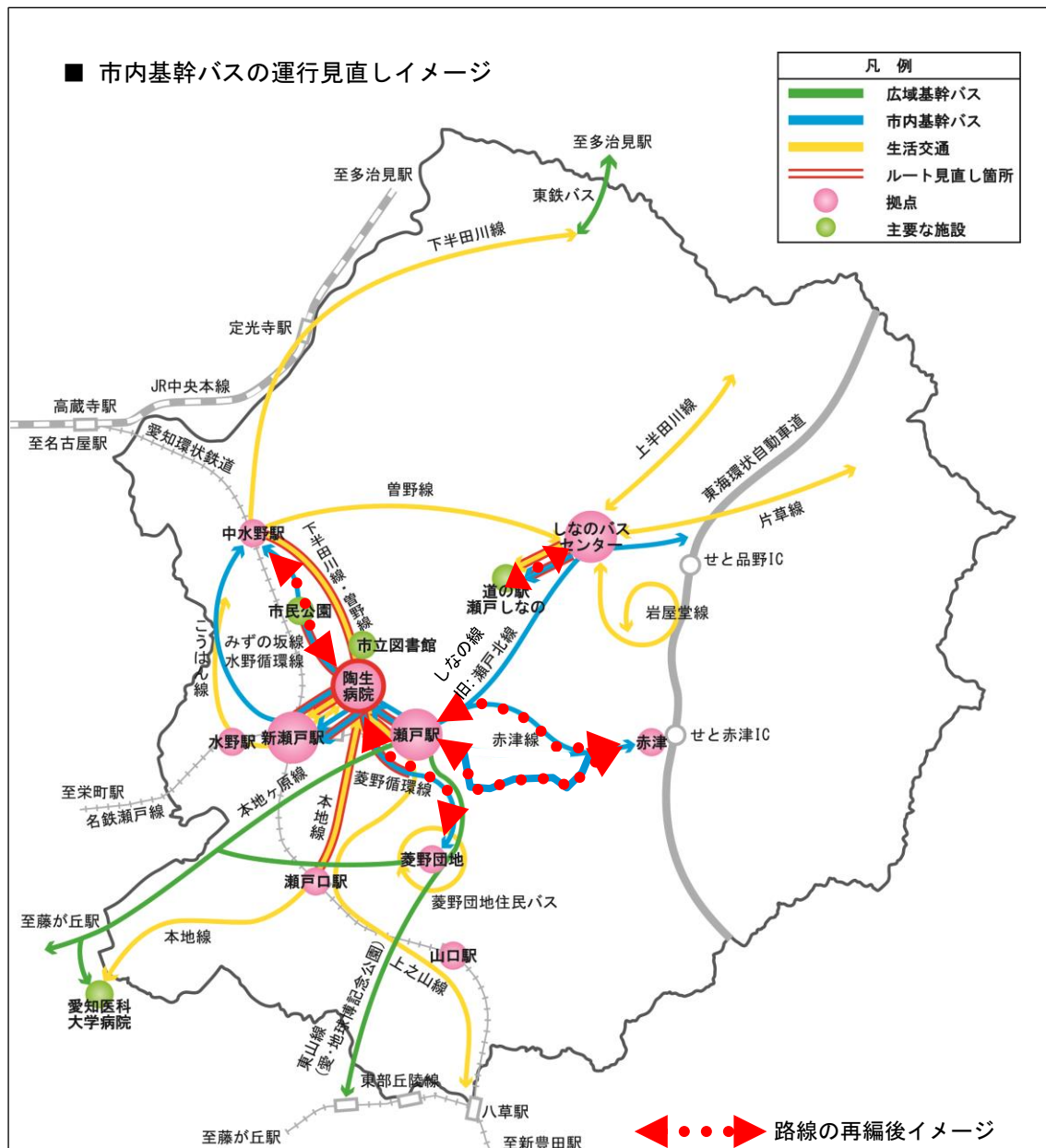
① 市内基幹バスの運行維持・見直し

広域基幹バスと連携して通勤・通学や観光・まちづくりなどにおける利便性の向上を図るため、市内拠点間の交通ネットワークを形成する基幹バスの運行を維持します。

利用実態や人口・土地利用動向、生活利便施設の立地状況などに応じた運行経路やバス停間隔・名称の見直し、鉄道や他のバスとの円滑な乗継を可能とするダイヤ調整等を行い、利便性の向上を図ります。

<実施内容>

- ・路線名の見直し（瀬戸北線をしなの線へ名称変更（本頁以降しなの線（旧瀬戸北線）と表す））
- ・陶生病院バスロータリーへの乗り入れ（しなの線（旧瀬戸北線）、みずの坂線・水野循環線、菱野循環線）
- ・まちづくり、観光振興における運行経路の見直し、道の駅瀬戸しなの乗入検討（しなの線（旧瀬戸北線））
- ・小中一貫校開校における運行の見直し（赤津線）
- ・運行経路の見直し、市民公園前バス停の移設（みずの坂線・水野循環線）



各路線系統の位置付けと役割（広域基幹バス、市内基幹バス）

位置付け	路線名・系統	実施主体	起点	経由地	終点	役割	確保・維持策	
広域基幹バス	本地ヶ原線※ ¹	名鉄バス	名鉄バスセンター		瀬戸駅前	隣接市の都市拠点との広域交通を担う。	①	
			名鉄バスセンター		菱野団地		①	
			藤が丘	愛知医大病院	瀬戸駅前		②	
	東山線	名鉄バス	藤が丘		瀬戸駅前			①
			藤が丘		菱野団地			
			瀬戸駅前		愛・地球博記念公園駅			
	下半田川線	東鉄バス	下半田川		多治見駅前			①
市内基幹バス	しなの線※ ² (旧瀬戸北線)	名鉄バス	上品野	しなのバスセンター	新瀬戸駅	主に尾張瀬戸駅を発着地として、市内拠点間を連絡する。	①	
			上品野	しなのバスセンター	瀬戸駅前		②	
	赤津線※ ³	名鉄バス	赤津	にじの丘学園	瀬戸駅前		①	
			赤津	古瀬戸	瀬戸駅前		②	
			赤津	一里塚	瀬戸駅前			
	東山線	名鉄バス	菱野団地		新瀬戸駅			①
	水野循環線	名鉄バス	陶生病院	中水野駅	陶生病院		愛知環状鉄道・名鉄	①
みずの坂線	名鉄バス	中水野駅	新瀬戸駅	陶生病院	瀬戸線等の市内拠点間を連絡する。	①		

上記路線・系統については全て道路運送法第4条（路線定期運行）

確保・維持策の凡例

- ①交通事業者と連携し、一定以上の需要を確保する
- ②地域公共交通確保維持改善事業（国庫補助金）を活用し持続可能な運行を目指す

※1は地域間幹線系統国庫補助金の対象（対象系統は瀬戸駅～愛知医大病院～藤が丘）

※2は地域内フィーダー系統国庫補助金の対象（対象系統は上品野～しなのバスセンター～瀬戸駅）

※3は地域内フィーダー系統国庫補助金の対象（対象系統は赤津～古瀬戸～瀬戸駅、赤津～一里塚～瀬戸駅）

地域公共交通確保維持改善事業の必要性

市内基幹バスのうち名鉄バスしなの線（旧瀬戸北線）・赤津線については、地域公共交通確保維持改善事業の認定を受けて運行している路線である。しなの線（旧瀬戸北線）は、地域から尾張瀬戸駅や陶生病院、赤津線は、地域から尾張瀬戸駅に通じている路線であり、主に通学・通勤、通院、買い物など生活に必要な移動手段として利用され、地域住民にとって必要不可欠な役割を担っている路線である。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しいため、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。

各路線系統の位置付けと役割（生活交通）

位置付け	路線名・系統	実施主体	起点	経由地	終点	役割	確保・維持策
生活交通	下半田川線	瀬戸市 (運行は 交通事業者へ 委託)	妻之神	中水野駅	陶生病院	市内各地域を運行し、生活利便施設や公共交通結節点に接続する。	①
	曾野線		しなのバスセンター	中水野駅	新瀬戸駅		
	上半田川線		上半田川転回場	しなのバスセンター	道の駅瀬戸しなの		
	片草線		片草町民会館	しなのバスセンター	道の駅瀬戸しなの		
	岩屋堂線		道の駅瀬戸しなの	【循環】	道の駅瀬戸しなの		
	本地線		愛知医大	瀬戸口駅	陶生病院		
	上之山線		八草駅	瀬戸口駅	瀬戸駅前		
	こうはん線		イオン瀬戸みずの店	新瀬戸駅	陶生病院		
菱野団地住民バス	菱野団地コミュニティ交通運行協議会	八幡台西	【循環】	八幡台西	団地内に限った生活交通を確保し、生活利便施設や既存交通機関に接続する。	①	

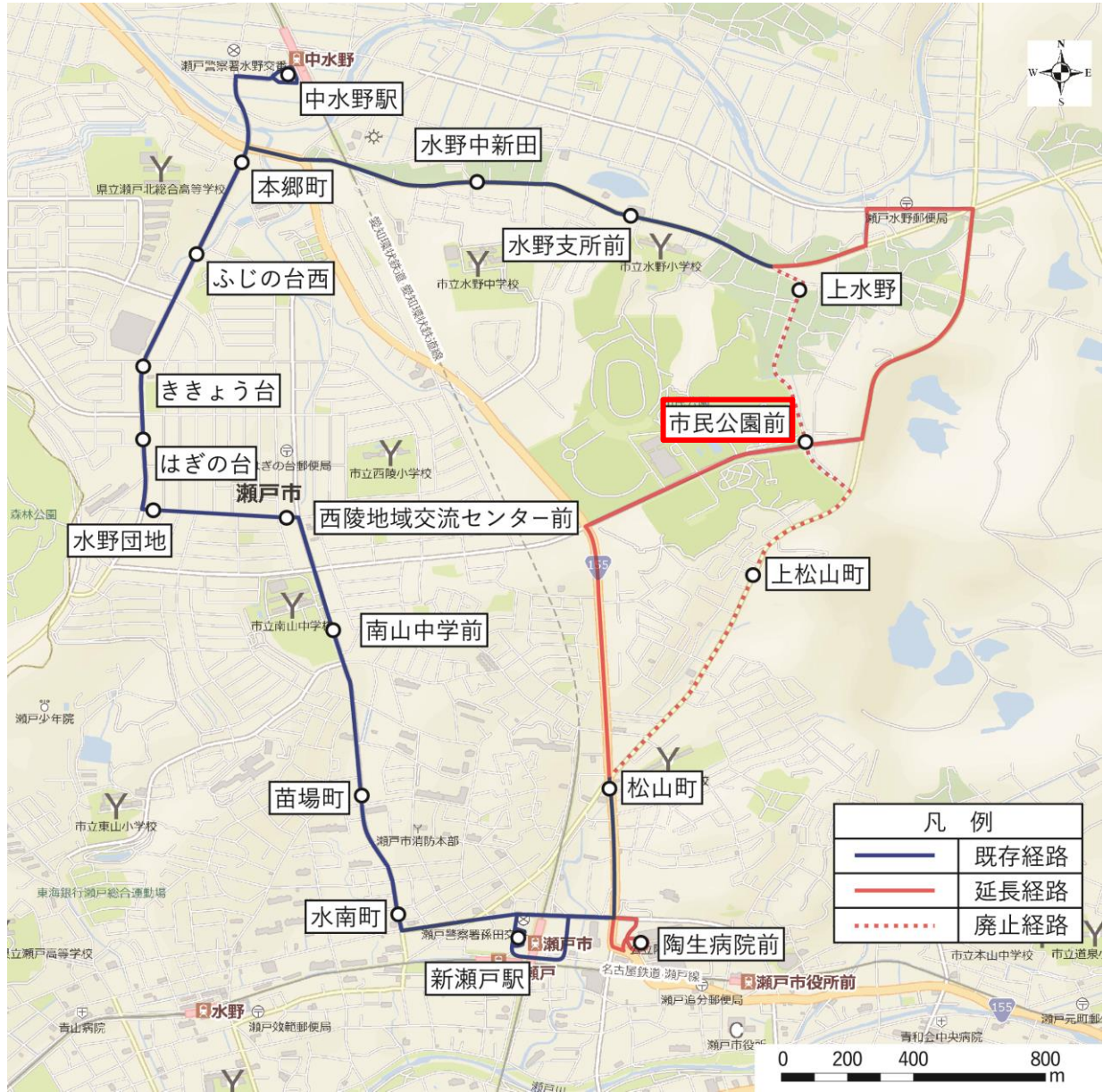
菱野団地住民バス以外の上記路線・系統については全て道路運送法第4条（路線定期運行）

菱野団地住民バスについては無料運行（道路運送法上、許可または登録を要しない運行形態）

確保・維持策の凡例

①交通事業者と連携し、一定以上の需要を確保する

■ 運行経路の見直し、市民公園前バス停の移設案（みずの坂線・水野循環線）



⑨ まちづくりと連携した新たな交通ネットワークの形成

将来的な中水野駅周辺や、せと赤津 I C 周辺のまちづくりと連携し、乗り換え拠点の形成とともに新たな交通ネットワークを検討し、段階的な整備を推進します。

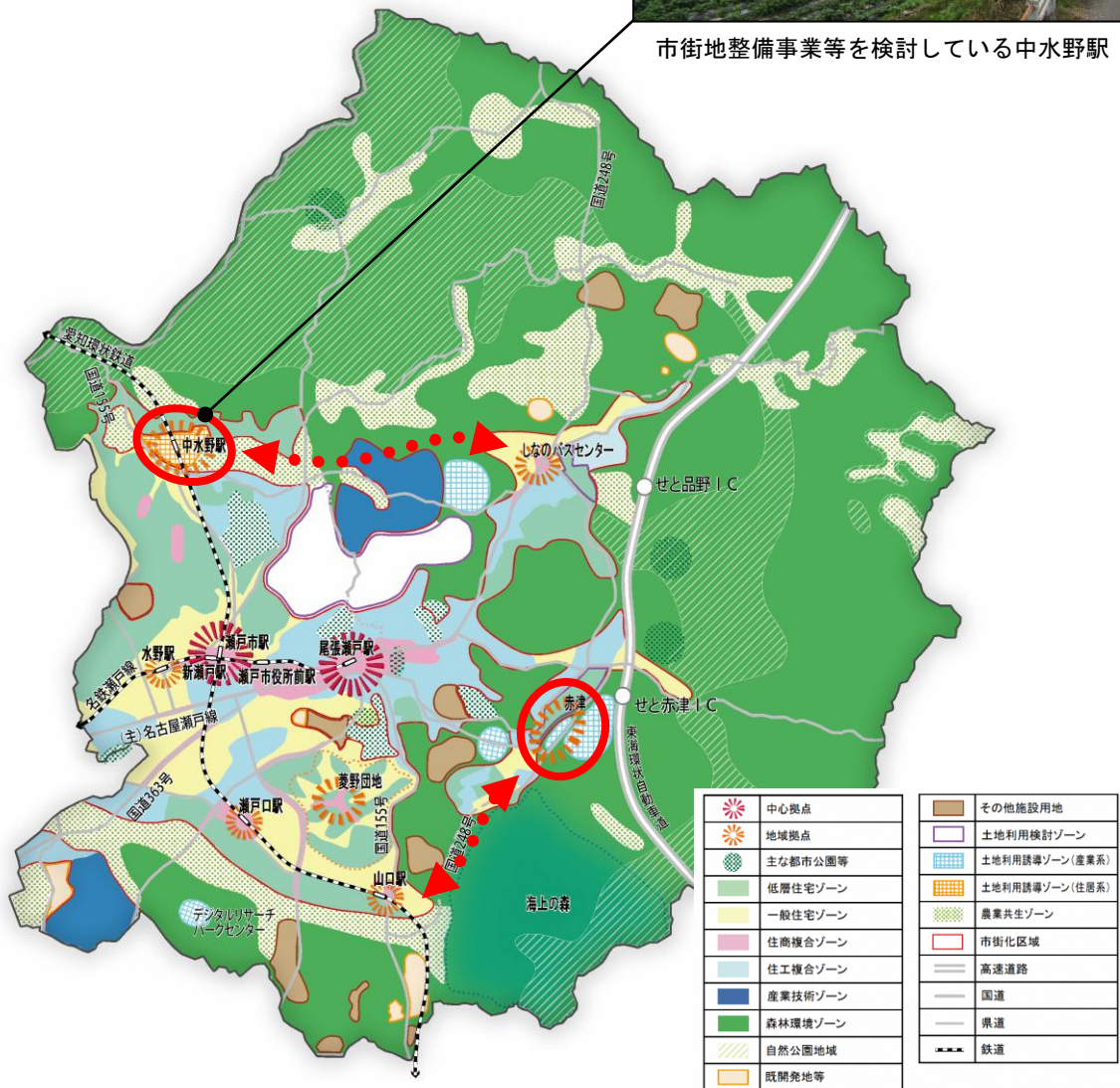
<実施内容>

- ・中水野駅周辺のまちづくりと連携した交通ネットワークの検討
- ・せと赤津 I C 周辺のまちづくりと連携した交通ネットワークの検討

■ まちづくりと連携したネットワークの検討
(土地利用構想図)



市街地整備事業等を検討している中水野駅



目標③ 生活交通の確保・維持に関する事業

④ コミュニティバスの運行維持・見直し

鉄道や路線バスに接続し、市街地や集落の居住地から生活利便施設へのアクセスを確保するため、コミュニティバスの運行を維持します。

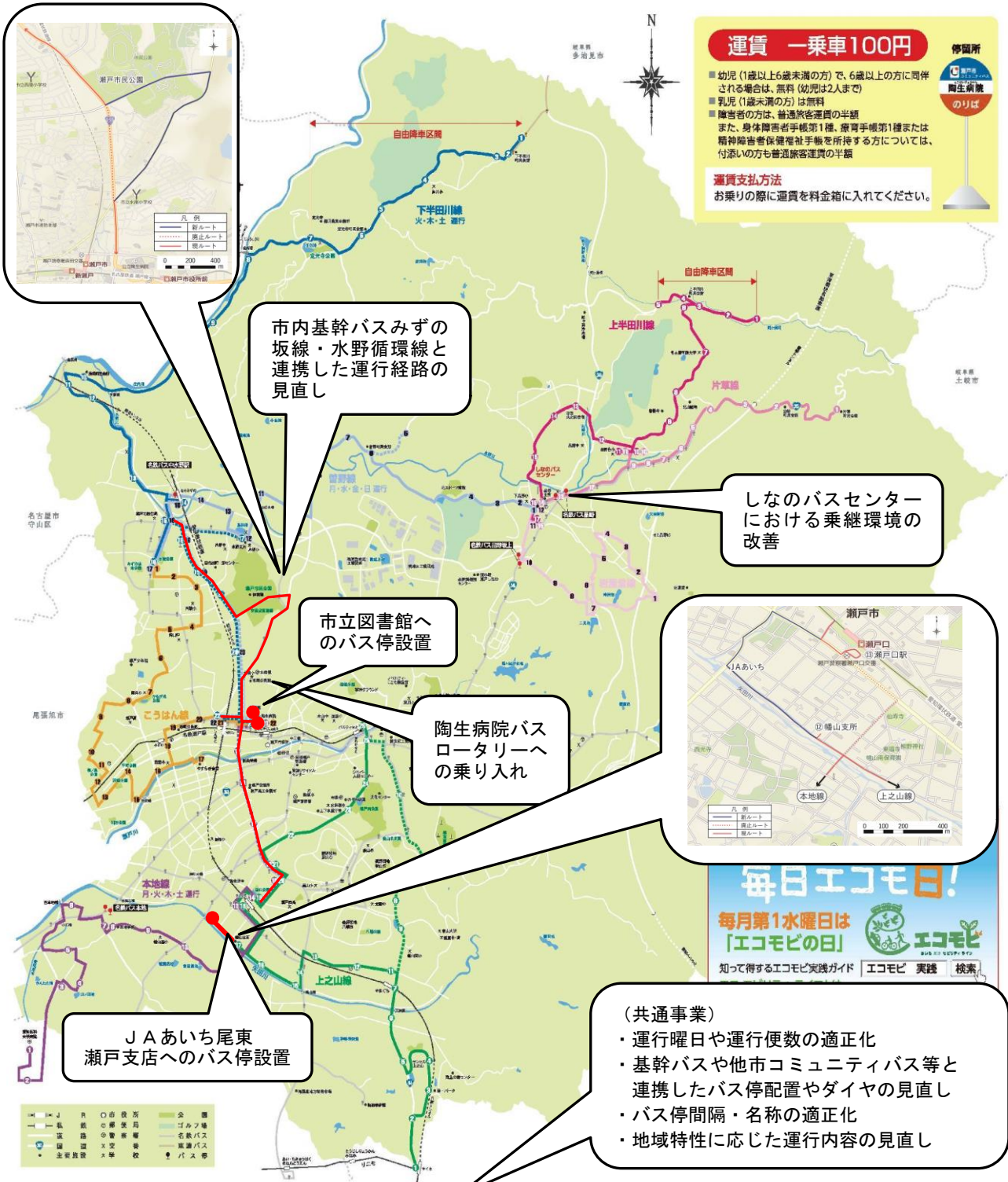
また、地域特性に応じた運行経路やバス停間隔・名称の見直し、鉄道や他のバスとの円滑な乗継を可能とするダイヤ調整等の運行内容の見直しを行い、利便性の向上を図ります。

<実施内容>

- ・ 陶生病院バスロータリーへの乗り入れ
（こうはん線、本地線、下半田川線、曾野線、上之山線）
- ・ 市内基幹バスみずの坂線・水野循環線と連携した運行経路の見直し（下半田川線、曾野線）
- ・ しなのバスセンターにおける乗継環境の改善（上半田川線、片草線、岩屋堂線）
- ・ 運行曜日や運行便数の適正化
- ・ 基幹バスや他市コミュニティバス等と連携したバス停配置やダイヤの見直し
- ・ バス停間隔・名称の適正化
- ・ 市立図書館、J Aあいち尾東瀬戸支店へのバス停設置
- ・ 地域特性に応じた運行内容の見直し

■ コミュニティバスの運行内容見直しイメージ

瀬戸市コミュニティバス路線図



路線名	運行日	停留所
下半田川線 火・木・土 運行		1 栗之神 2 下半田川町児童会館 3 下半田川町 4 鶴川小学校 5 定光寺町東 6 定光寺町児童会館 7 定光寺公園 8 定光寺駅 9 川平町 10 倉敷町児童会館 11 鹿野町 12 鹿野町東 13 十軒家 14 中水町駅 15 本郷町 16 イオン瀬戸みずの店 17 水野支所 18 炒りの台 19 小田原 20 北山山道 21 陶生病院 22 新瀬戸駅
曾野線 月・水・金・日 運行		1 しなのバスセンター 2 下原小学校 3 尾野町6丁目 4 北ノグラウンド 5 東曾野児童会館 6 曾野駅前 7 曾野 8 曾野東 9 曾野西 10 北山山道 11 山形 12 水野支所 13 三社大明神 14 水野中橋 15 中水町駅 16 本郷町 17 イオン瀬戸みずの店 18 炒りの台 19 小田原 20 北山山道 21 陶生病院 22 新瀬戸駅
上半田川線		1 上半田川児童会館 2 徳戸 3 上半田川町児童会館 4 寺前橋 5 中平橋 6 西新田 7 名古屋学院大学クリニック 8 北山山道 9 西栗原 10 藤下 11 尾野台小学校 12 広之田 13 広之田児童会館 14 北山山道 15 北山山道 16 しなのバスセンター 17 パロ一日野店
片草線		1 片草町児童会館 2 白岩町 3 白岩 4 ノノ瀬橋 5 上野野 6 中町 7 城崎 8 中野 9 上野野口 10 藤下 11 尾野台小学校 12 中野野 13 尾野 14 しなのバスセンター 15 パロ一日野店
岩屋堂線		1 岩屋堂 2 尾野町東 3 尾野町中 4 尾野町西 5 尾野町南 6 高野 7 二又池北 8 高野山 9 尾野町3丁目東 10 尾野町3丁目西 11 パロ一日野店 12 しなのバスセンター
本地線 月・火・木・土 運行		1 尾野町東 2 尾野町中 3 尾野町西 4 尾野町南 5 高野 6 二又池北 7 高野山 8 尾野町3丁目東 9 尾野町3丁目西 10 パロ一日野店 11 しなのバスセンター
上之山線		1 尾野町東 2 尾野町中 3 尾野町西 4 尾野町南 5 高野 6 二又池北 7 高野山 8 尾野町3丁目東 9 尾野町3丁目西 10 パロ一日野店 11 しなのバスセンター
こうはん線		1 尾野町東 2 尾野町中 3 尾野町西 4 尾野町南 5 高野 6 二又池北 7 高野山 8 尾野町3丁目東 9 尾野町3丁目西 10 パロ一日野店 11 しなのバスセンター

① 菱野団地住民バスの運行維持・見直し

菱野団地内において、八幡台、原山台、萩山台の地域住民がまとまり、団地内に限った生活交通の確保の観点から名鉄バスへの乗り継ぎやセンター付近への通所、買い物など、住民の移動手段として「住民バス」を運行します。

持続可能な運行に向けて、運行主体の機能強化、収益を得る仕組みづくりなどを検討し、自家用有償旅客運送への移行を目指します。

また、菱野団地での新たなまちづくりの取組みと連携して、センター地区への更なるアクセス強化や新たなコミュニティの場の提供、地域活性化等の菱野団地の再生へつなげます。

<実施内容>

- ・利用者ニーズ、移動実態に応じたバス停や運行ダイヤの見直し
- ・収益を得る仕組みづくりの検討
- ・自家用有償旅客運送への移行
- ・菱野団地再生計画に基づくまちづくりと連携した取組みの実施

■ 本格運行を開始した住民バスの様子



■ 菱野団地再生計画住民ワークショップ（社会実験）によるまちづくりとの連携



① 大学スクールバスとの連携

路線バスやコミュニティバスを補完し住民の移動を確保するため、市内に立地する名古屋学院大学と連携し、スクールバスを地域住民が利用できる官学協働の取り組みを継続します。

<実施内容>

- ・名古屋学院大学のスクールバス「瀬戸路線」への地域住民の利用の継続

■ 大学スクールバスの様子



㊀ 新たなモビリティ・移動支援システムの導入

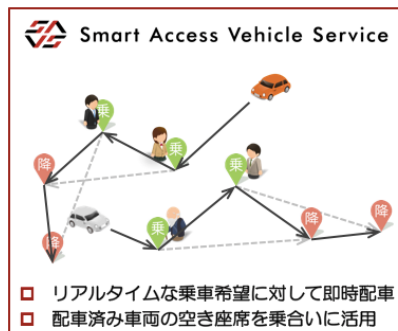
各地域で異なる人口密度や高齢化の状況、生活利便施設の立地状況や地勢、地域ニーズなどの地域特性に応じ、生活交通として市民の移動手段を確保するため、菱野団地住民バスをモデルとした地域との協働事業やタクシー車両等を活用したデマンド交通や市内に立地する企業や学校、福祉施設等の送迎バスへの混乗や空き車両の活用、アクティブシニア層等が活躍する新たな移動支援システムの研究、導入を推進します。

また、愛知県が取り組んでいる「あいち自動運転推進コンソーシアム」への参画をはじめ、新たなモビリティ社会実現へ挑戦する次世代産業・研究機関との連携等により、自動運転やIoT、AI等の最先端技術の研究、活用を推進します。

<実施内容>

- ・菱野団地住民バスをモデルとした地域との協働事業の研究、導入
- ・タクシー車両等を活用したデマンド交通の研究、導入
- ・企業や学校、福祉施設等の送迎バスへの混乗や空き車両の活用の研究、導入
- ・アクティブシニア層等が活躍する移動支援システムの研究、導入
- ・「あいち自動運転推進コンソーシアム」への参画や次世代産業・研究機関との連携による自動運転やIoT、AI等の最先端技術の研究、活用

■ まちなか乗合タクシーの事例（なごや相乗りタクシー実証実験）



名古屋市のタクシー事業者では、相乗りタクシーの利便性及び効率性の調査を目的とし、走行中の相乗り担当車両の中からリアルタイムに相乗り配車がおこなわれる相乗りタクシーの実証実験を行っている。

つばめタクシーグループホームページ、株式会社未来シェアホームページより

■ あいち自動運転推進コンソーシアム

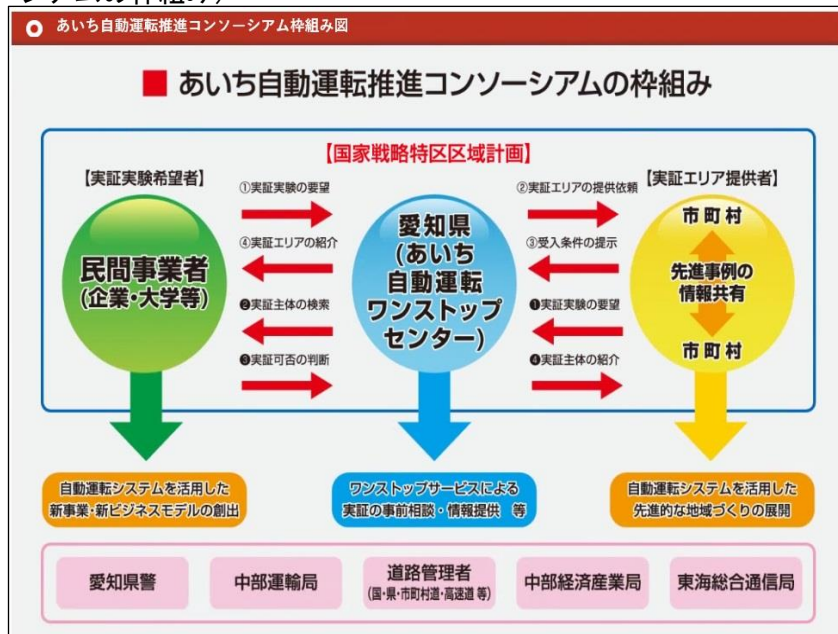
愛知県では、平成29年7月に自動運転システムに係る企業・大学等や自動運転システムの導入を目指す県内の市町村等が参画する「あいち自動運転推進コンソーシアム」を設置し、瀬戸市も加盟している。

本コンソーシアムは、企業・大学等と市町村とのマッチング等により、県内各所における自動運転の実証実験を推進し、将来的には、自動運転に係るイノベーションの誘発により、新たな事業を創出し、オールあいちによる自動運転の社会実装を目指すことを目的に活動している。

(取組内容)

1. 最先端の技術を活用した自動運転の実証実験
2. 自動運転の実証実験を希望する企業・大学等と市町村とのマッチング
3. 自動運転の実証実験に係る手続きのワンストップサービス
4. 自動運転システムを活用した地域の先進事例の情報共有
5. 自動運転に係る新事業、新ビジネスモデル創出に向けた調査、研究等
6. ホームページを活用した情報発信
7. その他コンソーシアムの目的を達成するために必要な事業

(コンソーシアムの枠組み)



■ 自動運転実証実験事例 (春日井市高蔵寺ニュータウン)

高蔵寺ニュータウンでは、人口減少及び高齢化の進展や、坂道が多いという地形上の特性から、子育て世代の流出や高齢者等の外出機会の減少などが懸念されている。

そこで、春日井市では新たな移動手段の確保に向けて、自動運転車両による高齢者の外出支援の実証実験を実施している。



■ 先導的モビリティ（歩行支援モビリティサービス）に関する取組（春日井市高蔵寺ニュータウン）

高蔵寺ニュータウンが将来にわたって持続可能なまちであるために、「快適移動ネットワークの構築」、「多様な交通手段の確保」を目指し、春日井市とトヨタ自動車との連携によるパーソナルモビリティのシェアリングサービスの実証実験が実施された。

（パーソナルモビリティのシェアリングサービス実証実験）

- ・一人乗りタイプの歩行支援車両を利用して徒歩圏の移動をサービス
- ・平成29年11月15日～28日
- ・サンマルシェ（アピタ館西側テラス）～UR藤山台管理サービス事務所（約1.2km）
- ・片道200円、往復500円（市内在住・在勤、20歳以上、要身分証）※往復での利用は、最大2時間
- ・無料乗車体験コーナーを併設



■ 乗り合い送迎サービス「チョイソコ」の実証実験（豊明市）

アイシン精機(株)と(株)スギ薬局は豊明市の支援を受けて、高齢者を中心とした地域の皆様の健康維持・増進を目指した移動支援サービスの実証実験が実施された。

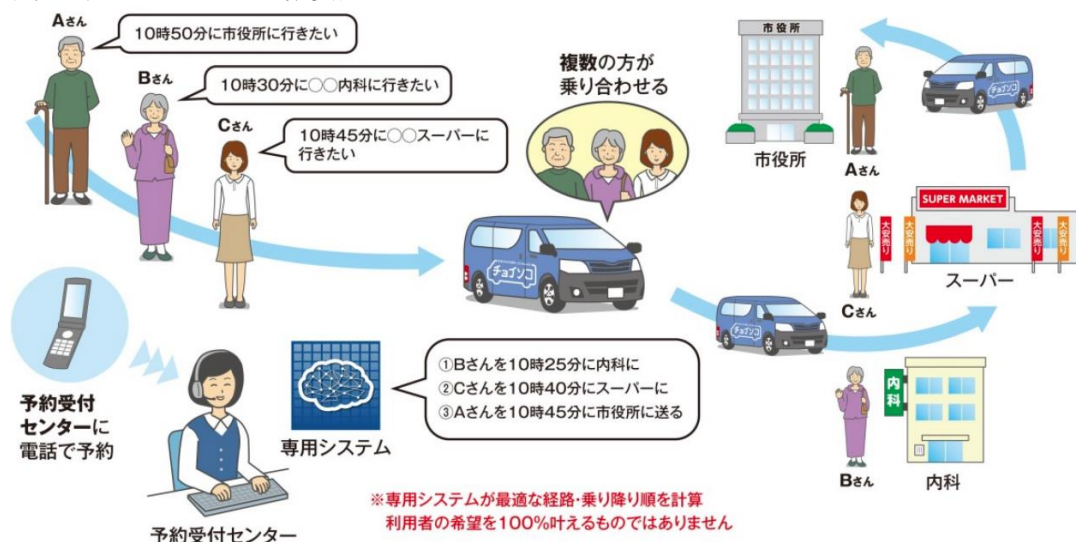
高齢化が進み、“買い物難民”の増加が社会問題化しているなか、自力での通院が困難で、適切な診療・服薬指導を受けることが困難な“医療難民”でもあると考えられる。

このような問題解決に向け、地域の皆様と医療機関や公共施設、フィットネス・スーパーマーケット等の施設を結ぶ「乗り合い送迎サービス」を提供し、より多くの方々が適切な診療と服薬指導および総合的な健康相談を受けられ、かつ社会活動や買い物等に気軽に出掛けられる環境を創出していく。

（乗り合い送迎サービスの実証実験）

- ・指定地区から豊明市内（事前に会員登録が必要）
- ・平成30年7月24日～12月25日
- ・近郊の医療機関を中心とした指定停留所への乗り合い型の送迎サービス
- ・事前に複数の利用者の希望目的地・希望到着時刻を専用システムで計算し、効率的な送迎サービスを運行

（乗り合い送迎サービスの概要）



アイシン精機 プレスリリース

目標④ 市民・交通事業者・行政の協働による利用促進に関する事業

① 地域主体の公共交通検討体制の構築

市内基幹バスやコミュニティバスの運行内容の検討や利用促進施策を実施する、市民・交通事業者・行政による三位一体の体制の構築を進めます。

路線毎に話し合いができる場を整理・設立し、意見交換を通じて利用者や住民ニーズ等の情報共有を図り、運行内容へ反映します。

<実施内容>

- ・公共交通会議の開催
- ・市内基幹バス沿線協議会の開催（瀬戸北線、みずの坂・水野循環線、赤津線）
- ・コミュニティバス運行協議会の開催（こうはん線、下半田川・曾野線、品野3路線、菱野団地住民バス）
- ・コミュニティバス運行協議会の設立（上之山線、本地線）
- ・市内基幹バス沿線協議会、コミュニティバス運行協議会等の検討体制の整理

■ 公共交通会議の様子



■ 菱野団地コミュニティ交通運行協議会の様子



㊦ バスの乗り方教室の開催

学校の授業や地域行事、イベント等と連携してバスの乗り方教室等を開催し、路線バスやコミュニティバスの乗り方やバスの死角体験を通じた交通安全学習、バスへの愛着促進を深める取り組みの実施により、利用促進を図ります。

<実施内容>

- ・ 小学校におけるバスの乗り方教室の開催
- ・ 地域行事、イベント等におけるバスの乗り方教室の開催

■ バスの乗り方教室の様子（下品野小学校）



■ 地域行事でのPRブース（品野台地域力向上協議会）



■ 高齢者対象のバスの乗り方教室の事例（佐賀市）

佐賀市では、高齢者の移動手段としてバスを利用してもらえるように、高齢者を対象に、バスの仕組みや運賃の支払い方、高齢者向け割引料金の説明をおこなう「バスの乗り方教室」を開催している。



⑨ バス広報の作成、配布

バスの乗り方や、バスを利用するメリット、バスを利用して行くことが出来る施設を市民に広く周知するため、地域住民が主体となって、地域ごとにバス広報を作成、配布します。

<実施内容>

- ・バス広報の作成、配布

■ バス広報（下品野バス広報第17号）

下品野バス広報 第17号

瀬戸北線の利用者数は？
市内バス交通に対する市の負担額は？

人口減少や少子高齢化、自家用車への依存の高まりなどにより、瀬戸北線の利用者数は、平成24年度以降の5年間で約2万人減少しています。

市内基幹バス（瀬戸北線）の利用者数について

年度	利用者数（千人）
平成24年度	285
平成25年度	280
平成26年度	278
平成27年度	272
平成28年度	264

5年間で約2万人減少

市内のバス交通の運行経費

項目	金額（百万円）
市が年間に約1億4,611万円を負担	14,611
市民一人当たり年間約1,100円の負担	1,100
市収入	10,440
国庫補助金	407
運行経費合計	25,458

※対象：名鉄バス（瀬戸北線、赤津線、水野線、瀬戸・みずの取線）及びコミュニティバス

瀬戸北線の利用者減少に伴い、負担金は年々増えてきており、平成28年度は、約4,889万円となりました。
（※瀬戸北線のみに対する負担額）
こうした状況のもと、市役所が名鉄バスに対し、瀬戸北線の運行に伴う赤字分を負担し、バスの運行を継続しています。

～ 基幹バス・コミュニティバスは私たちの大切な生活交通です。路線維持のためにもみなさまの積極的なご利用をお願いいたします。～
下品野地域力向上協議会（公共交通グループ）
—平成30年1月—

下品野バス広報 第17号

下品野小学校で
バスの乗り方教室を
開催しました

平成29年10月27日（金）に下品野小学校4年生（90名）を対象とした「バスの乗り方教室」を開催しました。

この教室は、名鉄バス（瀬戸北線）の利用促進事業として、子どもたちにバスへの関心や愛着を高めてもらい、一人でも安全にバスを利用できるように、4年前から下品野小学校と名鉄バスの協力を受けて4年生を対象に実施しています。

(バス停の見方)

教室では、バスの死角体験やバスの乗り方、運賃表の見方、運賃の払い方、ICカードマナカの利用体験を行い、楽しく勉強できました。バスの乗り方を学んだあと、児童たちは「一人でも乗れるぞ！」と自信に満ちた顔つきでした！

～参加者の感想～

- ◆バスには色々な工夫がなされていて、バスに興味を持ちました！
- ◆お父さん、お母さんを誘ってバスでお出掛けしたい！
- ◆死角の多さにびっくりしました！自転車でバスの近くを通るときは気をつけます。

…など、たくさんの感想をいただきました。

下品野地域力向上協議会（公共交通グループ）
—平成30年1月—

目標⑤ 公共交通利用意識の醸成に関する事業

◎ **市民向けエコモビの日(毎月第1水曜日)の実施**

自動車と公共交通、自転車、徒歩などをかきこく使い分ける「エコモビリティライフ」の普及・定着を目指し、毎月第1水曜日に設定されている「あいちエコモビリティライフの日」(略して「エコモビの日」)の取り組みを展開します。

また、瀬戸市ではさらなる公共交通に対する意識啓発のために、「瀬戸市公共交通の日」(仮称)を設定し利用促進キャンペーンの実施を検討します。

＜実施内容＞

- ・「エコモビの日」のPR
- ・市内企業へのエコモビ実践キャンペーンへの参加呼びかけ
- ・「瀬戸市公共交通の日」(仮称)の設定

■ 公共交通利用促進キャンペーン取組み事例

「公共交通に親しむ日」 - 岡崎市 -

岡崎市では、市内路線バス、まちバス全路線で小学生の運賃を無料にし、公共交通機関を実際に体験してもらうことで、公共交通利用の促進につなげる「公共交通に親しむ日」を設定している。当日はイベント会場を設け、バスの乗り方教室や運転手体験、また車両基地の見学など、公共交通に関する愛着促進、啓発活動を行っている。

電車・バス見学会



東岡崎駅/バックヤードツアー

名古屋鉄道株



北野柵塚車両基地見学会

愛知環状鉄道株



岡崎営業所見学会

名鉄バス株

交通ひろば 他



バスの乗り方教室

名鉄バス株



バス運転手体験

名鉄バス株



額田の見どころ案内

額田地域生活交通協議会

④ まちづくり、観光情報の発信

観光施設や地域のイベントなどと連携し、バス等の公共交通を利用したアクセス情報を各施設のホームページやパンフレット等に掲載するほか、公共交通を利用した観光モデルルートの作成を行い、情報を発信します。

<実施内容>

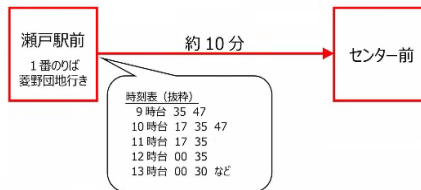
- ・市内観光施設、地域のイベントへの公共交通を利用したアクセス情報掲載
- ・公共交通を利用した観光モデルルートの作成、情報発信

■地域のイベントと連携した事例（瀬戸市菱野団地）



会場までのアクセス

公共交通機関でお越しの方
(名鉄バス)



車でお越しの方

菱野団地商店街の駐車場をご利用ください。

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用いただきますようお願いいたします。

また、当日は住民バス特別運行も行いますのでぜひご利用ください。

住民バスについてはこちらをご覧ください。 <http://www.city.seto.aichi.jp/docs/2018051500125/>

(瀬戸市ホームページより)

■路線バスによる観光ガイド事例（豊橋市）

豊橋市と豊橋観光コンベンション協会では、公共交通を使って観光スポットを巡るモデルコースを紹介した観光ガイドを発行している。本観光ガイドでは、観光スポットに加え、バスの待ち時間等に行くことのできるバス停周辺のお店の紹介や、公共交通で行くことのできるイベントカレンダーを掲載するなど、観光客にとって利便性の高い内容としている。



目標⑥ 利用しやすい交通環境の構築に関する事業

④ 料金体系の見直し

路線バスやコミュニティバスにおいて、利便性向上のため、均一料金や学生割引（補助）などの導入を含め、適切な利用者負担を踏まえた運賃の見直しを行います。

また、コミュニティバスにおいて、スムーズな乗降やお得な料金設定による利用しやすい交通環境の実現のため、回数券を作成します。

<実施内容>

- ・市内基幹バスの運賃見直し
- ・コミュニティバスの運賃見直し
- ・コミュニティバス回数券の作成

■回数券の事例（尾張旭市）

尾張旭市のコミュニティバスでは、100円券11枚つづり1,000円の回数券を設定している。



出典：尾張旭市 東部市民センター・勤労福祉会館HP

■1日乗り放題の事例（岡崎市）

岡崎市のコミュニティバスでは、降車時に運転手から「乗り継ぎ券」をもらえば、当日に限り2回目以降の乗車は、「乗り継ぎ券」を見せるだけで両ルートとも無料（一日乗り放題）となる。



⑤ 交通系ICカードの導入

交通系ICカードを未導入の愛知環状鉄道、コミュニティバスにおいて、市民や来訪者の移動の円滑化やバリアフリー化による利便性向上のため、交通系ICカードを導入します。

また、商業施設との連携など、ICカードを活用した利用促進について研究します。

<実施内容>

- ・愛知環状鉄道への交通系ICカードの導入
- ・コミュニティバスへの交通系ICカードの導入
- ・ICカードを活用した利用促進の研究

■ICカードを活用した利用促進の事例（イオンモール長久手）



長久手市の商業施設では、交通系ICカードを利用しリニモで来店した来客に対して買い物券を発行するなど、交通系ICカードを活用した公共交通の利用促進を行っている。

⑤ バスロケーションシステムの導入

バスの運行状況に関するタイムリーな情報提供による利用の円滑化やバス待ちの心理的負担の軽減など利用者の利便性向上を目的としてバスロケーションシステムを導入します。

<実施内容>

- ・コミュニティバスへのバスロケーションシステムの導入

■ バスロケーションシステムの例（愛知県ITS推進協議会）

バスロケーションシステム
バスの運行状況が分かるシステム

バスロケーションシステムとは、バスの位置情報を収集し、バス停に設置されたサイネージやバス利用者の携帯電話等にバスの運行情報を提供するシステムです。

リアルタイムに運行状況が分かるためたいへん便利なシステムとして、既にさまざまなバス事業者で導入が進められています。QRコードを使って携帯電話に登録するだけで利用できるものもあり、手軽さも魅力です。



左：案内板を活用した例 右：QRコードと携帯電話を活用した例

■ 名鉄バスロケーションシステム

バスは「いつ来る?」「今どこ?」がすぐわかる!

バスの現在位置や遅れ時間などの運行状況を、携帯電話・パソコンから閲覧できるサービスです。

2014 3/1(土)スタート!

名鉄バスロケーションシステム

名鉄バス(名古屋市、長久手市、日進市、瀬戸市、尾張旭市)

N-バス(長久手市巡回バス)

ぐるみず(日進市内巡回バス)

携帯電話やパソコンでチェック!

QRコードを読み取るだけ!

バスはいつ来るの? 今どこを走っているの?

バスはいつ来るの? 携帯電話で簡単チェック!

※ホームページからQRコードをダウンロードできます。

バス停に貼ってあるステッカーのQRコードを読み取るだけ!

お問い合わせは 名鉄バス 名古屋営業所 TEL 0561-62-7677

名鉄バス

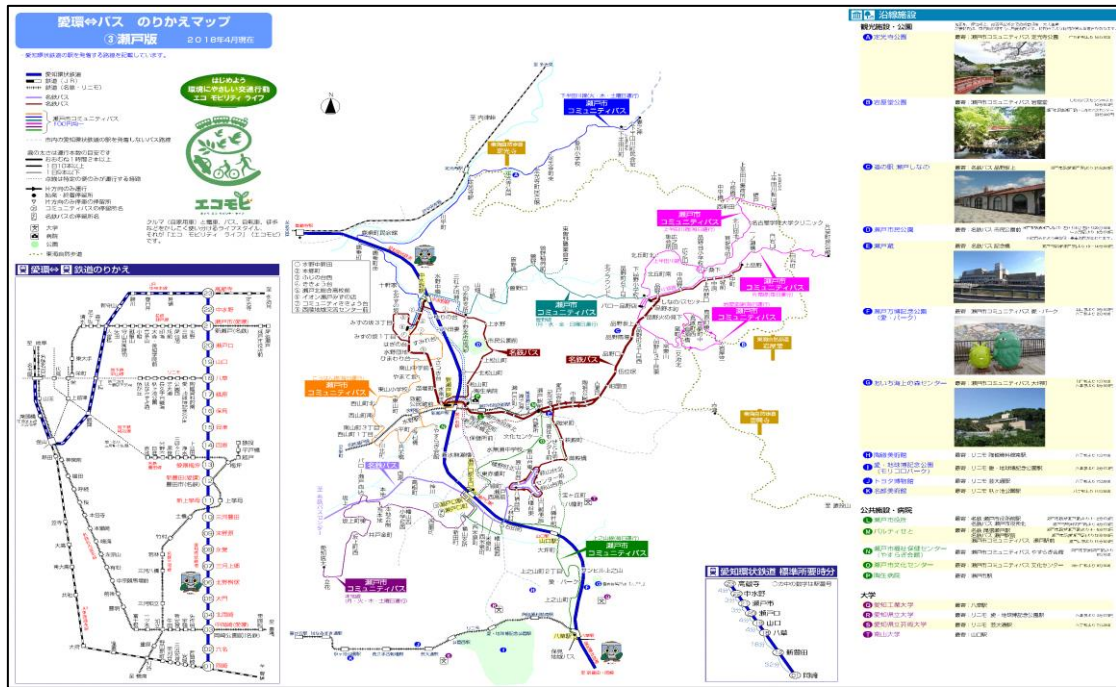
① わかりやすい公共交通情報の提供(公共交通マップの作成等)

市内の鉄道、路線バス、コミュニティバスの運行ルートやダイヤ、のりば案内等の情報提供や、路線情報等のG T F S化によるインターネット検索への対応など、利用者にとって使いやすく、誰にとってもわかりやすい情報を提供します。

<実施内容>

- ・ 乗り継ぎに配慮した路線図、時刻表の作成
- ・ 地域や年齢等ターゲットに応じた路線図、時刻表の作成
- ・ 路線情報のG T F S化、インターネット検索への対応

■ 乗り継ぎ情報や沿線情報が整理された路線図 (愛知環状鉄道)



■ インターネットによるバス経路検索事例

2 12:18 発 → 12:51 着 所要時間 33分

¥ 350円 乗換 1回

印刷 | メール送信 | カレンダー登録 | ルート指図

出発 12:18 発 瀬戸駅前 (愛知県)

17分 5階のりば 名鉄バス しなのバスセンター行 運賃 250円

途中の停留所

12:35 着 12:41 発 しなのバスセンター

10分 せとコミュニティバス 岩屋堂線 鳥原橋行 運賃 100円

途中の停留所

12:51 着 到着 岩屋堂 (愛知県)

周辺情報 ホテル グルメ 住宅情報 バス停 駅 駐車場 レンタカー予約

岩屋堂 (愛知県) を出たからの徒歩ルート
周辺にあるスポットまでのルートを検索します。徒歩での移動に便利です。

「NAVITIME」 - (株)ナビタイムジャパン-

パソコンやスマートフォンから、今いる場所から最終目的地までの『地点』から『地点』までを電車やバス、飛行機、フェリーなど複数の交通機関から最適な交通機関を使った経路検索サービスを提供している。(瀬戸市コミュニティバス反映済み)

目標⑦ 運行内容見直し基準の作成に関する事業

④ 運行内容見直し基準の作成

限られた財源の中で市民の移動を確保するために、PDCAサイクルに従って継続的に改善を図っていきます。その際に運行内容見直しの必要性を判断するため、収支率などの見直し基準を作成します。

<実施内容>

- ・コミュニティバスの運行内容見直し基準の作成

■運行見直し判断フローの事例（立川市地域公共交通会議）

立川市では、コミュニティバスの本格運行について、毎年各ルートの「収支率」を継続基準として本格運行路線を継続するかを判断することとしており、改善を図っても最長で2年連続で継続基準に満たないルートは廃止することとしている。

